

相生学院団体アベックV

テニス

男子エース苦戦も3連覇

(第7日 神戸総合運動公園)
シングルス2の東が勝利した後

程なくしてダブルスの丸山、高畑組もストレートで相手を退けた。テニス男子団体決勝は、相生学院が悠々と3連覇。指導経験を積むため、荒

いはいい」と評価した。ただ、シングルス1の阿多だけが、その波に乗れなかった。「ミスが多

く、ボールを入れない」としてまたミスを繰り返す悪循環だった。甲南の奥平を相手に第1セットを3

1で落とし、第2セットは5-2と盛り返したが、チームの優勝が決まり、試合は打ち切りに。エースは「全然良くない」と反省した。

荒井監督からは打ち方に工夫を加えることのほか、団体戦を戦う態度についても注文が付いた。3月の全国選抜大会は連決勝で法政一(神奈川)に1-3で敗れ、優勝を逃している。この時、阿多は唯一の勝利を挙げたが、夏の全国制覇を見据え大黒柱にさらなる成長を求めた。

阿多はいっぱいだった。個人戦もあるし、しっかりと調整して勝ちたい。チームに勢いをもらえず存在になるべく、気持ちを切り替えた。

甲南・榎橋勇斗主将(テニス男子団体2位となり)「一年よりも結果を残せたが、相生学院を倒してインターハイに行くという目標を達成できず悔しい。相手が強いという先入観があり、ベストのプレーができなかった。実力不足が大き」

小川康介



女子 隙のない布陣で快勝



テニス女子団体決勝 シングルスで勝利を挙げた相生学院の伊藤

2年連続で春の全国女王に輝いた実力は抜けていた。テニス女子団体決勝は、相生学院がシングルス1の伊藤、ダブルスの古賀、田中組ともストレート勝ちを収め、2年前の決勝で敗れた芦屋学園に快勝。丸井監督は「隙のない布陣を組んだ」と胸を張った。

伊藤は6-2、6-2と相手を寄せ付けず、「しっかりと深いところにストロークを打っていて、自分の展開もついていた」と納得した。3月の全国選抜大会は2連覇したが、自身はエースが任せられるシングルス1で負け越し、いつも勝っている相手にも敗れていただけに、慢心はなかった。

【男子】団体3位決定戦 西宮甲英2-0神大付中校 相生学院2-0甲南

【女子】団体3位決定戦 啓明2-1園田

もしく、ダブルスでは入見組も古賀、田中組と遜色ない力がある。選手の内巻きには「全国制覇」の4文字。切望をこぼした。夏もかえってみ

中島	伊藤	田中	古賀	院	相生	啓明
66	66	66	66	1100	2	2
22	22	31	11	00	1	1
打り切	宮	木	園	芦屋	園田	園田
井	崎	嶋	崎	学	学	学